刊行にあたって

「校友会雑誌」（旧制第一高等学校友会発行）を複製・刊行すべきではないかと日本近代文学館の理事会で問題提起されたのは、数年前に遡る。その後八木書店と提携、同書店が製作、発売の準備をすすめていたところ、一高同窓会としても同様の計画があることを承知した。そこで日本近代文学館としては従来から複製・刊行してきたＤＶＤ版近代文学館の一冊として刊行したいと申し入れ、一高同窓会も快く私たち日本近代文学館の志を理解し、すすんで資料、情報等を提供して下さって、刊行に至ったのである。まず、刊行にあたって一高同窓会に心からお礼を申上げたい。

日本近代文学館が、「校友会雑誌」の複製・刊行を企図したのは、いうまでもなく、後に大成した、わが国を代表する文学者たちの処女作がじつに数多く発表されているからである。たとえば、川端康成の「伊豆の踊子」の原素材ともいうべき作品「ちよ」が発表されているし、谷崎潤一郎から神西清、堀辰雄、高見順らの世代を経て、福永武彦、中村眞一郎、加藤周一、清岡卓行らに至るまで、彼らの業績の出発点ともいうべき作品がじつに数多く掲載され、彼らの文学を解明する鍵を提供しているのであり、しかも、これらの大部分は埋もれたままになっていたのである。

加えて、当時の旧制一高には天下の俊才をもって自負した若者達が蝟集し、切磋琢磨していた。彼らにエリート臭が目立つことはあっても、明治二十三年から昭和十九年に至るまで、そうした俊才たちが、時代に対峙し、時代と共に悩み、その中で自己を確立していったのであった。そういう若者達を例示すれば、石原謙、阿部次郎、和辻哲郎、倉田百三、谷川徹三、林達夫、羽仁五郎等々であって、これまた枚挙に遑がない。このようにみてくると、「校友会雑誌」は、明治二十三年から昭和十九年に至る波瀾と動揺の時期に青春期を過ごしたわが国における、卓抜な若者たちの精神史ということができよう。

八木書店の全面的協力により刊行をみたＤＶＤ版「校友会雑誌」はたんに日本近代文学の研究者にとって貴重であるばかりでなく、わが国近代精神史の研究の必須の資料となるにちがいない。

二〇〇五年八月二十日

財団法人　日本近代文学館
理事長　中村　稔

第一高等学校「校友会雑誌」について
第一高等学校校友会発行／371冊、臨時増刊2冊、記念号2冊（明治23年11月～昭和15年12月）以後、改題し「護国会雑誌」全7冊（昭和16年6月～昭和19年6月）まで、全382冊が発行された。学術・芸術方面で大成した多くの逸材の青春を記録した貴重な雑誌として注目を浴びている。（本DVD版では大正12年発行の293号・295号が未発見のため未収録）

「校友会雑誌総目次・執筆者索引」編集委員　池内輝雄・稲垣真美・曽根博義・東郷克美・十川信介・中島国彦・中村稔（50音順）

主な執筆者

第一高等学校 校友会雑誌 護国会雑誌 含

DVD版 近代文学館⑧

明治から現在まで、各界を主導した人材を輩出した旧制一高の精神世界が、余すところ無く記された貴重な雑誌の複刻

著名人が学生時代に発表した未知の習作・処女作を一瞬で表示

詳細検索データを付した約3万9千頁の画像データベースをDVD一枚に収録

A total reproduction of invaluable literature depicting the spiritual world of Japan's oldest educational institution which forged the nation's leaders from various quarters spanning from the Meiji era to the present day.
A comprehensive collection of yet unpublished study literature and maiden works of prominent figures completed during their years of schooling presented in the blink of an eye.
A 39,000 page graphic database containing detailed information all recorded onto a single DVD.

DVD版 近代文学館⑧
第一高等学校
校友会雑誌
護国会雑誌 含

Windows XP版
明治23年11月～昭和19年6月

Windows 2000
Windows XP対応

DVD R

NO 海外販売不可

第一高等学校校友会発行
「校友会雑誌」（明治23年11月～昭和15年12月）
全371冊（但し2冊未収録）号外2冊・「機関樹」（紀念号）2冊
「護国会雑誌」全7冊（昭和16年6月～昭和19年6月）

編集・刊行：日本近代文学館
製作・発売：八　木　書　店
協力：一　高　同　窓　会

内容見本

2005年12月末刊行予定！ 第一高等学校校友会雑誌 DVD版 近代文学館⑧ 護国会雑誌 含

価格892,500円（本体850,000円+税）　画像DVD1枚「校友会雑誌　総目次・執筆者索引」（菊判上製本+システムディスクCD-ROM1枚）

サンプル画像をホームページで公開！
「校友会雑誌」の画像を閲覧&ご覧できる、サンプル画像を公開しております。
下記のURLの八木書店Webサイトでアクセスしてください。
http://www.books-yagi.co.jp/pub/pages/koukyu/
※このサイトは画像データ書誌データの見本を掲載しています。検索用ソフト、及画像閲覧ソフトを含む製品版のサンプルではありません。

校友会雑誌　総目次・執筆者索引	定価26,250円（本体25,000円）	菊判上製函入（350頁予定）1冊＋CD-ROM（システムディスク）1枚

・本書は、マイクロ版近代文学館「新潮」以来の編集方針を継承して、DVD版「校友会雑誌」のために編んだもので、独立した書誌としても利用できるよう配慮しました。
・創刊号から昭和19年6月「護国会雑誌」第7号までを収録し、目録（本）とCD-ROM（システムディスク）の両方の特性を生かしたアプローチが出来ます。
・目録は、総目次として「校友会雑誌」「護国会雑誌」55年間・380冊の見出しが総て閲覧出来ます。CD-ROMでは縦横な検索・絞り込みできます。従来の紙の索引では、執筆者名の50音配列でしたが、デジタル化する事により、記事名からの検索・絞り込みが可能になりました。

動作環境
DVD版は下記のハードウェア環境で作動します。

対応OS	日本語版Windows2000/XP SP1
CPU	Pentium Ⅲ 800MHz以上
メモリ	256MB以上
ハードディスク空き容量	約200MB以上（インストール時）
ディスプレイ解像度・ビデオカード	1024×768総ピクセル以上、フルカラー表示可能なディスプレイ
DVDドライブ	2倍速以上
CDドライブ	16倍速以上

マイクロ版・CD-ROM版近代文学館①～⑦（既刊）

タイトル	冊数	頁数	フィッシュ枚数 CD-ROM・DVD枚数	函	本体・税込価格	総目次・執筆者索引	頁数	本体・税込価格
① 新　潮	490冊	105,135頁	マイクロ 1,317枚	13函	1,785,000円（本体1,700,000円+税）	新潮総目次・執筆者索引（菊判上製）	1,040頁	18,900円（本体18,000円+税）
② 解　放	105冊	26,177頁	マイクロ 321枚	4函	420,000円（本体400,000円+税）	解放総目次・執筆者索引（菊判上製）	274頁	4,725円（本体4,500円+税）
③ 文章世界	216冊	68,486頁	マイクロ 761枚	8函	1,050,000円（本体1,000,000円+税）	文章世界総目次・執筆者索引（菊判上製）	914頁	26,250円（本体25,000円+税）
④ 新小説	402冊	124,630頁	マイクロ 1,456枚	15函	1,995,000円（本体1,900,000円+税）	新小説総目次・執筆者索引（菊判上製）	894頁	25,486円（本体24,272円+税）
⑤ 文章倶楽部	155冊	22,966頁	マイクロ 338枚	4函	493,500円（本体470,000円+税）	文章倶楽部総目次・執筆者索引（菊判上製）	786頁	23,447円（本体22,330円+税）
⑥ 太　陽	531冊	175,000頁	画像CD 77枚＋画像システムCD 1枚	—	2,520,000円（本体2,400,000円+税）	太陽総目次・執筆者索引（菊判上製+システムCD1枚）	992頁	50,400円（本体48,000円+税）
⑦ 文芸倶楽部 明治篇	284冊	108,070頁	画像DVD4枚＋システムCD1枚	—	1,890,000円（本体1,800,000円+税）	文芸倶楽部明治篇総目次・執筆者索引（菊判上製+システムCD1枚）	474頁	29,400円（本体28,000円+税）
文藝通信（復刻版）	42冊	2,856頁	菊判・アンカット	—	142,716円（本体135,922円+税）	文藝通信総目次・執筆者索引（A5判上製）	140頁	5,097円（本体4,854円+税）

マイクロ版・CD-ROM版・DVD版近代文学館シリーズには それぞれ総目次・執筆者索引が付属しています。総目次・執筆者索引は、単品のご注文も承ります。

総目次・執筆者索引の特色

・本マイクロ版・CD-ROM版・DVD版近代文学館シリーズの各「総目次・執筆者索引」は本シリーズのために編んだものですが、同時に独立した書誌としても利用できるように配慮しました。
・各々創刊号から収録最終号までの〈総目次〉と〈執筆者索引〉および解題からなっています。
・〈総目次〉は巻号順に題名、筆者、掲載頁の目次、更に挿絵、口絵を加え、マイクロフィッシュの位置、又はCD・DVDナンバーを示したものです。
・〈執筆者索引〉は、上記の〈総目次〉をコンピュータによって執筆者別に分け、その氏名を50音順に配列し、作品名や総題を記しました。
・また、各雑誌の特色を示すため、「文章世界」「新小説」など、ビジュアルな口絵や写真の多い雑誌には、口絵索引、写真目録を独立させ、目的に応じた検索が出来るよう配慮しました。
・「文章世界」「文章倶楽部」では、投稿頁をカバーする独立した〈投稿者索引〉を設け、膨大な投稿者を50音順に配列しました。

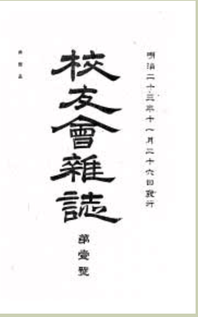
商標：Microsoft、Windows2000、WindowsXPは米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。Pentium 製は、米国Intel Corporationの登録商標です。

編集・刊行　日本近代文学館
製作・発売　八木書店 出版部
取扱店
［お問い合わせ先　八木書店出版部］
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8
TEL：03-3291-2961（営業）　FAX：03-3291-2962
03-3291-2969（編集）
E-mail：pub@books-yagi.co.jp　Web：http://www.books-yagi.co.jp
KP2005.10.16,000

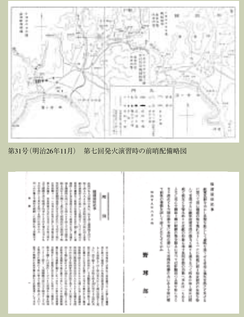
本書の特長

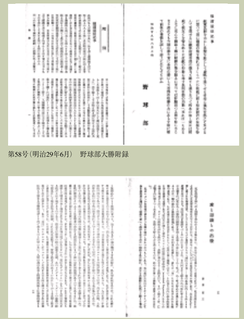
●全38,864頁に詳細書誌検索データ6,800件を付した完全な画像データベース。
●検索データは原本の見出しから採録し、目次にない情報も補った。
●可能な限り原本を2冊以上照合し最善本を撮影。表紙から奥付まで全頁を撮影。
●画面上から表紙・目次・奥付等を同時にプリントアウトできる機能を搭載した雑誌検索・閲覧ソフトで自在！

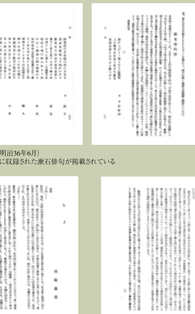
本書の紙面より



第1号（明治23年11月）　表紙


第31号（明治26年11月）　第七回発火演習時の前哨配備略図


第58号（明治29年6月）　野球部大勝利録


第128号（明治36年6月）
近年全集に収録された漱石俳句が掲載されている

第232号（大正3年1月）

第277号（大正8年6月）

第280号（大正9年6月）

第270号（大正7年3月）

アプリケーションの特色

DVD版 校友会雑誌の特色

○**膨大な原本をコンパクトに**
原本380冊、38,864頁をDVD 1枚に収録。

○**伸縮自在なデジタル画像**
原本の表紙から奥付まですべてをデジタル画像で収録。表示画面の拡大・縮小は思いのまま。拡大すればルビまではっきり見えます。

○**詳細な検索目録**
検索用のデータベースは、約6,800件の詳細なデータ。

○**検索データをカスタマイズ**
検索データには書き込みの出来る「ユーザーメモ欄」を設けました。また、各記事単位で、インターネット上のURLや画像ファイルをリンクし保存できる項目を設けました。各記事に関連したサイトをリンクしたり、また取り込んだ画像ファイルをリンクさせたりと、自分の使いやすいようにデータベースを育てることができます。

○**検索データの外部出力**
検索用データがCSV型式（カンマ区切りのテキストファイル）のデータとして出力できます。これによりエクセル・アクセスなどユーザーの使いなれた表計算・データベースソフトにとりこんで、縦横無尽に活用することが可能です。

○**進化したプリントアウト機能**
ディスプレイに画像を表示させてから記事単位でプリントアウトできるのはもちろん、検索結果画面から複数記事を選択、ボタン一つでプリントできるようにしました！ その上、選択オプションボタンで表紙・目次・奥付・記事情報も一緒にプリントアウトすることが可能になり、全くの手間いらずになりました。

簡単な検索・自由な印刷の例

ステップ①…検索語の入力
「ワード検索」画面で検索語を「校風」と入力。書誌データ6,800件の中から瞬時に検索します。

ステップ②…検索結果が一覧で表示
34件がヒットします。この一覧結果は、印刷はもちろん、テキスト形式による書き出しが可能です。

ステップ③…画像の表示
検索結果を選択、ダブルクリックすると該当頁が表示されます。拡大・縮小も自在です。

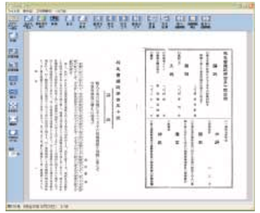
ステップ④…印刷
画像表示画面からだけでなく、検索結果画面からも直接印刷が可能です。複数の記事を選択し、一括で印刷することもできます。本文の該当箇所に加えて、表紙・目次・奥付・記事情報も一緒に印刷できます。もちろん、検索結果一覧を印刷することもできます。

○『芸倶楽部　明治篇』と合体可能
DVD版近代文学館②『文芸倶楽部　明治篇』が既にインストールされているPCでは、一つのソフトの中で、「校友会雑誌」と「文芸倶楽部」と同時に管理されるため、複数のコンテンツを串刺し検索することも可能です。小社刊の『美術新報』がインストールされている場合も、同様の検索ができます。

▼ステップ①　検索語の入力

▼ステップ②　検索結果の表示

▼ステップ③　画像の表示



▼ステップ④　印刷

主要掲載作品

上田敏「文学に就て」	2号	明23.12
大町桂月「剣舞?論天」	同	
上田敏「美術論」	18号	明25.6
本多光太郎「幾何学ノ二種ニ就テ」	19号	明25.9
上田敏「ウクライン五月の夜」[ゴーゴリ初訳]	25号	明26.3
吹田順助「病原を論ず」	124号	明36.3
安倍能成ほか「藤村操君を想ふ」	128号	明36.6
阿部次郎「あ・藤村操君」	同	
碧梧桐・亜子・漱石ほか「俳句会吟草」	同	
野上豊一郎「道光元釉論」	131号	明36.11
石原謙「現代の思潮を論じて精神的校風に及ぶ」	131～132号	明36.11,12
魚住折蘆「自殺論」	137号	明37.5
茅野蕭々「詩的空想の価値」	141号	明37.11
魚住折蘆「個人主義に就て」	142号	明37.12
安倍能成「個人主義を論ず」	145号	明38.3
大貫晶川「鼠波出頭録」[詩]	159号	明39.10
谷崎潤一郎「狩の葬式」[小説]	165号	明40.3
和辻哲郎「霊的本能主義」	171号	明40.11
大貫晶川「舞本　花散る夕――幕物」	176号	明41.5
後藤末雄「矛盾―友のふた句」[小説]	184号	明42.3
小泉鉄「Daseinsbewusstsein」[論説]	188号	明42.6
柳沢健「真紅な鳥 一幕物」	同	
小熊虎之助「精極主義」[論文]	194号	明43.2
山宮允「張牧光」[短歌]	195号	明43.3
吉植庄亮「寂しき人の手紙」[小説]	同	
豊島与志雄「その後」[小説]	203号	明44.3
久米正雄「青いマフルム」[戯曲]	208号	明44.10
菊池寛「屠獣場への道」[短歌]	214号	明45.4
佐野文夫「動ける生――ベルグソン論」]	215号	明45.5
恒藤恭「五月の歌」[詩]	217号	明45.6
倉田百三「わがいのちの歌」	221号	大2.2
倉田百三「愛と認識との出発」[論文]	232号	大3.1
谷川徹三「ひとりの男のうたへる」[詩]	240号	大3.12
円地与四松「山中道」[小説]	255号	大5.6
橋爪健「おさな詩二篇」	257号	大6.10
大佛次郎「鼻」[小説]	268号	大6.11
林達夫「歌舞伎劇にかんする考察」[論文]	270号	大7.3
芹沢光治良「失恋者の手紙」[小説]	同	
平野義太郎「善に就いての卑見」[論文]	272号	大7.5
翅田幸一「癲狂院の午後」[小説]	273号	大7.6
酒井真人「あけぼの」[詩]	277号	大8.6
川端康成「ちよ」[小説]	同	
羽仁五郎「猫を殺す話」[小説]	278号	大8.9
村山知義「ある夜の話」[小説]	280号	大9.6
湯地孝「独入と紅い笑」[小説]	281号	大9.11
池谷信三郎「白こさび」[小説]	同	
高橋健二「携狐」[小説]	283号	大10.6
吉野源三郎「ストリンドベルクの悲劇 上」	284号	大10.6
手塚富雄「火男と狂女の死」[小説]	288号	大11.6
神西清「後の林」[詩]	289号	大11.7
井上司朗「旅のうた」[短歌]	同	
石田英一郎「フルゲエルフの描いた蛋西亜の青年と女性」	296号	大12.11
堀辰雄「帆前船／古足袋／書物生活」[詩]	297号	大13.2
柴生田稔「死刑」[小説]	303号	大14.7
深田久弥「秋関怒」[小説]	304号	大14.10
成瀬正勝「妄見錯」[小説]	306号	大15.2
高見順「華やかな劇場」[小説]	307号	大15.6
高見順「生きてるるめるへん」[小説]	310号	昭2.1
中島敦「下田の女」[小説]	313号	昭2.11
島村秋人「三三が九」[戯曲]	315号	昭3.3
氷上英廣「エルンスト・トルルルについて」	316号	昭3.5
「平島村秋人君」「道稲荷故島村秋人」	317号	昭3.5
吉田精一「影」[小説]	318号	昭3.7
中島敦「 」	322号	昭4.6
中村光夫「トーキーの映画の発展」[評論]	327号	昭5.5
塙英夫「帰を食ふ」[箱」] [小説]	332号	昭6.6
塙英夫「突撃隊」[小説]	333号	昭6.10
杉浦明平「雑談」[短歌]	同	
立原道造「あひみてのこのち」[小説]	同	
森敦「西の日」[小説]	334号	昭7.1
国友周郎「詩集」[詩]	340号	昭8.1
猪野謹二「春背」[小説]	341号	昭8.6
生田勉「限界に於ける言葉の性格」(論文)	344号	昭8.11
寺田透「初夏」[小説]	345号	昭8.12
福永武彦「その昔」[詩]「かにかくに」[小説]	355号	昭11.6
中村眞一郎「我が少年の歌」[小説]	357号	昭11.11
福永武彦「黄昏行」[小説]	同	
中村眞一郎「優雅と虚無（竹取物語素描）」(評論)	358号	昭12.2
川俣晃自「乙女の花嫁に」[小説]	359号	昭12.6
小島信夫「凧」[小説]	同	
小島信夫「鉄道事務所」[小説]	360号	昭12.10
加藤周一「正月」[小説]	362号	昭13.2
長谷川泉「なづさひ」[小説]	364号	昭13.11
白井健三郎「しくらめん」[林」[詩]	366号	昭14.6
相沢英之「生活の喜び」[小説]	同	
窪田啓作「幼い日に」[詩]	369号	昭15.2
白井健三郎「無為のときには海へ行かう」[詩]	同	
神島二郎「古代研究」[論文]	護国会雑誌1号	昭16.6
横川文三「乞君のこと」[散文]	同	
清岡卓行「名に寄す」[詩]	同	
山下浩「一族」[詩]	2号	昭16.11
田中隆尚「麦の穂」[短歌]	同	
宗左近「なにぬねの」[散文]	3号	昭17.7
いいだもも「風景の心理学」[小説]	6号	昭18.11

第一高等中学校正門

谷崎潤一郎（左端）と朔寧同室生

弥生祭:南寮生記念写真　後列左から五人目藤井真人

編集に携わって

近代日本のエリート青年たちの知性と感性の歴史

曾根 博義
（DVD版校友会雑誌 編集委員・日本大学教授）

一高、旧制第一高等学校の「校友会雑誌」は明治二十三年に創刊、戦時中は『護国会雑誌』と名を改めて昭和十九年まで五十五年間続き、全三八二冊を出した。

明治三十年代には藤村操の投身自殺の衝撃を受けた魚住折蘆、安倍能成らによって個人主義をめぐる論議が高まった後、谷崎潤一郎、大貫晶川、和辻哲郎、倉田百三らの登場により文芸、哲学隆盛の機運が起こった。

これを受けて大正前期には谷口雅三、橋爪健、林達夫、芹沢光治良らの多彩な活動が見られ、大正後期には川端康成、池谷信三郎、村山知義、神西清、福原麟太郎、深田久弥ら、昭和の文学者たちの初期作品の発表舞台となった。

昭和に入るとマルクス主義運動が校友会全体を揺るがす一方で、詩歌、小説などの文学作品が誌面の大半を占めるようになり、高見順、中島敦、中村光夫、森敦、立原道造、杉浦明平、寺田透らが競い合って習作を発表し、校友会の雑誌というより文芸誌の機関誌のような趣を呈した。

昭和十年に一高は本郷から駒場に移転するが、その後、戦争前夜の数年間、福永武彦、中村眞一郎、小島信夫、加藤周一、白井健三郎らによって文芸雑誌の傾向はますます強まった。

しかし、校友会雑誌――の歴史的意義は、単に日本の近代文学や昭和文学を担った多くの文学者たちの処女作や初期作品の宝庫だという点だけにあるのではない。そのことも含めて、明治以来、「栄華の悲低く見て」きた知的エリートたちの、俗と超俗を抱え込んだ精神と心情の表現として、良くも悪くも近代日本の文化と思想の二面を具体的に伝える貴重な史料だという点にある。

編集と解説を担当した者の一人として、この複刻版が近代文学史、メディア史、文化研究、近代文学研究、その他、さまざまな分野の人々によって広く活用されることを願ってやまない。

推薦のことば

文豪達の二十歳前後の風貌

清岡 卓行

旧制の第一高等学校の「校友会雑誌」や「護国会雑誌」の復刻版は、その中に収められていた十九世紀末から二十世紀半ばにかけての学生の思考や心情を、生生しく眺めることができるので、他の場所に求めることのできない興味なる文献となっていよう。

たとえば、上田敏、谷崎潤一郎、菊池寛、堀辰雄、中島敦などの二十歳前後の文学的風貌に、こく間近から親しむことができるのである。

私は立原道造が同校一年生で十八歳のときそこに発表している「青空」を見いだし、深い思いに打たれた。そこでは気楽そうな少年が空や雲や緑の遠いものと眺めている。二十代の彼の詩は空や雲や風に、泌みとおるように寂しげな限愛感を通わせたりしているが、その清潔の奥深くには、そんなふうに爽やかな少年が隠されていたのである。

私は詩人像が立体的に浮かんでくるのを感じてしみわけてやまない。

懐かしの「校友会雑誌」

いいだ もも

まったくなまたまのことであるが、旧制一高「校友会雑誌」全三八二冊中の「主要掲載作品」の巻尾を飾っている〔?!〕のが、十七歳だった小生の「風景の心理学」である。錦上花を添える、というべきか、竜頭蛇尾というべきか……。

その先頭が第二号所載の上田敏「文学に就て」それから、大町桂月、野上豊一郎、魚住影雄、阿部次郎、茅野蕭々、大貫晶川、谷崎潤一郎、吉植庄亮、和辻哲郎、後藤末雄、安倍能成、……となる。ここらあたりまでくれば、校誌末輩の小生にとっても、安倍能成は小生在学中の一高校長として、われわれがたいへん人間的だった。

それから第一〇三号以降の豊島与志雄、佐野文夫、久米正雄、菊池寛、恒藤恭、中村光夫、立原道造、森敦、福永武彦、小島信夫、加藤周一、白井健三郎、村山知義、橋爪健、深田久弥、清岡卓行、橋川文三、……とくる。こうなればもう、わたくしにとっても学思・文思がじかにある。旧知・親交の方々ばかりだ。なつかしの全三八二冊ではある。

一高略史

1874（明7）12月　東京英語学校開設。
1877（明10）4月　東京英語学校と東京開成学校、合併し、東京大学予備門となる。
1886（明19）4月　予備門を第一高等中学校と改称。
1888（明21）3月　本郷の前田家（加賀藩）邸を確保、本郷から駒込に移転。
1888（明22）3月　校長に就任。
1889（明23）5月　本郷寮（校長寮）竣工。
1890（明23）10月　本郷寮、寄宿舎に自治制を認める。
1893（明26）11月　「校友会雑誌」創刊。
1894（明27）11月　「校友会雑誌」、「文芸倶楽部」刊行。
1896（明29）6月　講道館、柔道部、剣道部、相撲部、野球部、ボート部、陸上部、テニス部、ラグビー部、ボクシング部、水泳部、ヨット部、ゴルフ部、スケート部、スキー部、山岳部、ヨット部、ゴルフ部、スケート部、スキー部、山岳部、ヨット部、ゴルフ部、スケート部、スキー部、山